

神を愛する

31st Sunday B

愛についての教えはたくさんあります。社会にはすでに愛についての出版されている本が数えきれないです。ラブソングも、映画も、ドラマも、詩も、物語も、絵も、漫画もたくさんあります。きっと、これからも愛についての教えがもっと出てくることでしょう。もし愛を定義するとしたら、あなたの経験に基づいて、あなたは何と言いますか？

今日の聖書朗読は、愛について何を教えてくれるのでしょうか？ 聖書朗読は、愛を理解するための指針となります。モーセは選ばれた民に、心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして主を愛し、これらの言葉を心に留めるようにと教えました。簡単に言えば、主を愛するということは、私たちの生活の中で主を第一に置くということです。

一方、福音書では、イエスは一人の律法学者の質問に応じて、シエマを唱えました。"第一の掟は、これである。イスラエルよ、聞け、私たちの神である主は、唯一の主である。心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くし、あなたの神である主を愛しなさい。第二の掟は、これである。隣人を自分のように愛しなさい。この二つに勝る掟はほかにない。"ここでイエスは、思いで神を愛することを付け加えました。私たちの心、私たちの思い、私たちの精神、そして力で愛することは、私たちがすべて神を愛することです。神にすべてをささげることです。その後、すぐ、イエスに隣人愛について話されました。なぜなら、彼らにとって、隣人を愛することも同様に重要ですから。

ギリシャ人にとって、愛はアガペーです。アガペーという言葉は、感情ではなく、行動することを意味します。アガペーは行動を要求しています。アガペーは具体的な表現をすることを求めます。神を恐れる夫は、妻と子供たちに忠実です。彼は決して妻をだましません。道徳的な信者は、仲間に対して恨みや怒りを抱きません。許してあげます。相手の理解、相手の立場から出来事を見ることに力を入れます。

神を愛し、隣人を愛することは、彼らに対して道徳的な感情を持つだけではありません。真実の愛は感情を超えています。周りの人々を愛することは、神を愛することの表現にすぎません。隣人を憎んでいる人は、主を愛しているとは言えません。この人と一緒にいるのは耐えられません。それは偽の神への愛にすぎません。

先月末、教皇フランシスコは「彼は私たちが愛しておられた」というタイトルの新しい回勅を私たちに与えてくださいました。ラテン語では、Dilexit Nos と呼ばれます。それはイエスの愛についてです。ここで教皇は、愛の模範としてイエスの聖心というイメージを私たちに与えました。おそらく、来年の養成に向けて、この回勅について一連の議論をすることができでしょう。教皇フランシスコは、神の愛に出会うことで、他の人々を兄弟姉妹として見る目が開かれ、母なる地球のために働くようになると強調しました。簡単に言えば、彼は私たちに神を愛することには社会的な側面があると教えています。

兄弟姉妹の皆さん、シノドス的な教会についてのローマでの集会在無事に終わりました。代表団はすでに自分の国に帰国しました。シノダリティは、小教区として私たちに何を要求しているのでしょうか？私たちはどのようにシノダリティを生きますか？

教会のリーダーたちは、私たちの時代に応じて神と隣人を愛する方法を人々や子供たちに教えるために、時間と資源を使うことになっています。コミュニティとして、私たちは座ってオープンハートでお互いに耳を傾けあいます。誰も厳しく判断しません。自分を分断するものをわきに置きます。心に怒りや憎しみがある場合、それらを癒しと赦しのためにイエスに持って行きます。そして最後に、私たちのコミュニティは包括的です。インクルーシブです。すべての人を歓迎します。他の人を収容するためにテントを拡大します。

もし私たちが心と思いと行いで隣人を愛するなら、イエスは「あなたは神の国から遠くない」と言われるでしょう。神は私たちの内にとどまっています。間違いなく、私たちはそのイエスのみ言葉を聞きたいでしょう。

祈りましょう；主よ、私をあなたの愛で満たしてください。私をあなたの親切さで満たしてください。そして、私をあなたの愛の担い手にしてください。アーメン。